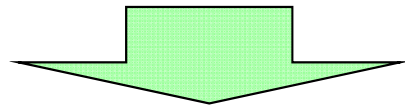


唐津市(九州・沖縄ブロック)

【計画期間 22年3月～28年3月】 ※ 期間延長適用後

- ・江戸期 : 唐津藩の城下町として発展
- ・明治～ : 天然の良港を擁し石炭積出で繁栄
- ・昭和～ : 約50の炭鉱閉山並びに遠洋漁業衰退

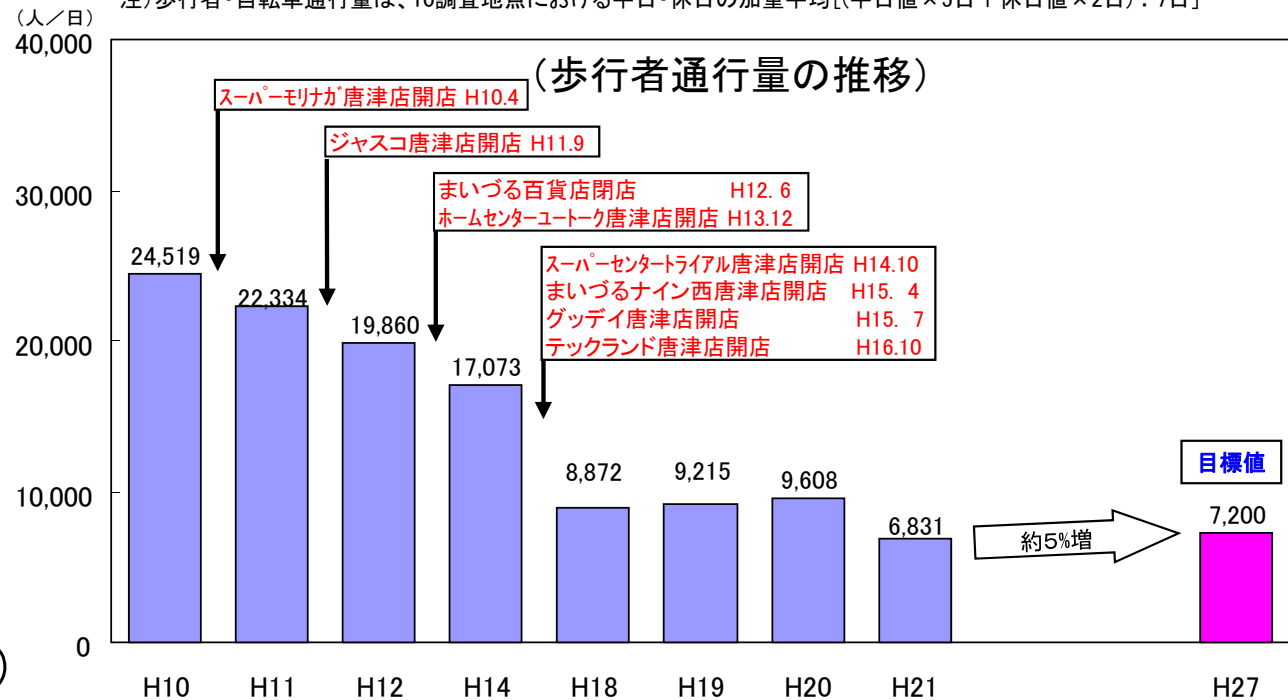
- 郊外大型店の出店、百貨店やスーパーの撤退により商業機能低下。
- 福岡都心部へ約70分 (S58:福岡市営地下鉄・JR筑肥線相互乗入) にあり、ベットタウン化により居住人口は近年横這いである一方、高齢化・核家族化は進展。
- 豊富な歴史的観光資源を擁するも、施設の老朽化、情報発信不足等により観光入込客数も伸び悩み。



- 歩行者通行量の減少
H10: 24,519人/日
→ H21: 6,831人/日 (▲ 72.1%)
- 年間小売販売額
H9: 14,814百万円
→ H19: 6,765百万円 (▲ 54.3%)

目 標	指 標	現況値	目標値 (H27)
歩きたくなる「まちなか」	歩行者・自転車通行量	6,831人/日 (H21)	7,200人/日
住みたくなる「まちなか」	居住人口	7,339人 (H20)	7,630人

注) 歩行者・自転車通行量は、10調査地点における平日・休日の加重平均 [(平日値×5日+休日値×2日)÷7日]



- 中心部再開発による商業機能の強化や歴史的建造物の多目的利用による交流機能の強化、さらには、各種イベントの開催等により、誰もが歩いて楽しめる街を目指す。
→ 主要事業: ①唐津大手口街区優良建築物等整備事業、②旧唐津銀行整備事業、③集客・交流イベント、など
- 修学環境の整備や高齢者住宅の確保を促進する取組等により、誰もが住みたくなる街を目指す。
→ 主要事業: ④早稲田佐賀中学・高等学校整備事業、⑤地域優良賃貸住宅制度、⑥街なか誘導バス社会実験、など

唐津市中心市街地活性化基本計画の事業概要

歩きたくなる「まちなか」

○唐津大手口街区優良建築物等整備事業(①)

駅・商店街と連続する街の中心部に、**バスセンター**や**不足業種**を主とする商業施設、市役所増床フロアなど多様な施設を導入する再開発ビルを整備。



○旧唐津銀行整備事業(②)

街のシンボルである市指定重要文化財「旧唐津銀行」を修復・復元し、**地産地消レストラン**や**観光情報施設**、**イベントフロア**などを有する交流拠点として整備。



東京駅の設計者として有名な唐津出身の辰野金吾氏の監修

○集客・交流イベント(③)

歴史豊かな「唐津くんち」に加え、**若者を街中へ誘導する「からつんまちは、100円祭」**などのイベントを開催。



「からつんまちは、100円祭」

○集客施設誘致促進事業(空き店舗対策)

歩いて楽しい賑わいある商店街の再生を図るため、**空き店舗の利用転換助成**を継続実施。



飲食店実績(雑居ビル空707-活用)

○回遊路等のエバーグリーン化

街中の回遊環境の向上を図るため**歩道等公共施設のエバーグリーン化**を実施。

住みたくなる「まちなか」

○早稲田佐賀中学・高等学校整備事業(④)

郊外移転した高等学校跡に、**1,080人の生徒数を予定する中高一貫校(510人の学生寮含む)**を整備。



○地域優良賃貸住宅制度(⑤)

高齢者や子育て世代を対象とした**優良賃貸住宅の建設等**に対する助成を実施。

○街なか誘導バス社会実験(⑥)

高齢者等の街なか移動を支援する**コミュニティバス**運行の社会実験を実施。



イメージ

